

安平町が進めている

遊育 ってなに？

近年、子どもを取り巻く環境では、空間・時間・仲間の3つの間が失われてきていると言われています。そんな状況に日本の子どもたちが直面しているということが推測できる調査結果があります。

■日本青少年研究所調べ

「自分は価値のある人間だと思
う」という問いに「YES」と
8%が回答

■ユニセフ調べ

「孤独を感じることもある」とい
う問いに「YES」と29.8%
が回答

■児童の放課後活動の国際比較よ り

「放課後、週2日以上1人で過
す」という問いに「YES」と
41%が回答

これらの子どもの「自己肯定感の低さ」や「孤独感を感じている」、「コミュニケーション不足」というものが各種調査で出ており、安平町ではこのような結果からも、子どもたちにとって魅力的な「遊び場」や「遊ぶ機会」を作ろうとしています。

教育は教えて育てるものに対し、遊育は遊んで育つという学び。もちろん学問としての教育も欠かせない重要なことです。が、生涯にわたり役立つとされる非認知能力^{※1}は幼児期から学童期にかけての取り組みがカギになるとされています。そんな非認知能力は、遊びを通じて育むことができることとされており、遊びというものもとても重要に考えています。そんな遊育は、あびら教育プランというも
のの中で推進しており、子どもたちの「一歩踏み出す瞬間」に出会うため段階的な教育と合わせ行っています。自分の価値観を大切にしながら、社会の変化に合わせて常に挑戦していく姿勢を身につけて欲しいと願い取り組んでいます。

あびら教育プラン

2019年4月から「遊育」「あびらぼ」「カイトク」という3つの事業（あびら教育プラン）によって全ての世代に教育機会を提供しています。子どもから大人まで「豊かに生きるために挑戦する人」を応援し、教育を通してより良いまちを作
ることを目指しています。

あびらぼ

身近な物事をいつもと違う視点から捉え直すことで、子どもの視野や世界観を拡げる町営塾。学校や社会で必要な考える力・伝える力を身につけることも、大切にしています。

カイトク

子どもから大人まで、「挑戦したいこと」を持った熱いチャレンジヤーに対し、クラウドファンディングのサポートやプレゼンテーション企画の実施などを通じ、夢の実現を応援しています。



安平町

遊育のキーパーソンに聞いてみた

三上 泰明 (教育委員会事務局 主査)

安平町出身。2003年に入庁し、今は四児の父。事業担当者かつ父親の目線で、安平町が推進する遊育を「子どもの遊びという、今までの安平町にはあまりなかったコミュニティ形成の切り口で、保護者の方々と繋がり合えることも魅力」と話す。

鈴木 宙夢 (地域おこし協力隊)

千葉県柏市出身。2020年4月より、安平町地域おこし協力隊（遊びプロモーター）として活動。どの子どもにも絶対良いところがあり、その才能に目を向けること。そして、家庭や学校だけでなく社会全体で子どもを育てていくことをモットーに活動中。

